

(30) ミニトマト

(ア) 病害

| 病害虫名及び 防除時期 | 防除方法及び注意事項 |
|------------------|--|
| 斑点病 (ハウス栽培) | <p>発生条件</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 半促成から夏秋どり作型においては、6月下旬以降から発生する。 2. 主要品種では「キャロル10」、「ラブリー藍」は防除が必要である。 <p>薬剤防除</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 茎葉散布 <ol style="list-style-type: none"> (1) 半促成から夏秋どり作型においては、7月上旬から薬剤散布を開始する。 (2) 散布間隔が長くなると効果が低下する。特に多湿時には散布間隔が空かないようにする。 (3) 本病に防除効果を示す薬剤のうち、TPN水和剤フロアブル、イプロジオン水和剤は程度は軽いが果実に汚れを生じる場合がある。 |
| 葉かび病 (ハウス栽培) | <p>耕種的防除</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 抵抗性品種を導入する。ただし、抵抗性遺伝子 <i>Cf-9</i> 保有品種を侵す系統が全道的に出現しているので注意する。 <p>薬剤防除</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 茎葉散布 <ol style="list-style-type: none"> (1) 本病に防除効果を示す薬剤のうち、TPN水和剤フロアブルは程度は軽いが果実に汚れを生じる場合がある。 (2) すすかび病と混発する場合があるので、薬剤の選択には注意する。 |
| すすかび病 (ハウス栽培) | <p>薬剤防除</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 茎葉散布 <ol style="list-style-type: none"> (1) 発生は定植後早期から認められる。発生歴のあるハウスでは予防的な散布を行う。 (2) 本病に防除効果を示す薬剤のうち、TPN水和剤フロアブルは程度は軽いが果実に汚れを生じる場合がある。 (3) 葉かび病と混発する場合があるので、薬剤の選択には注意する。 |

(イ) クリーン農業技術(病害虫防除関係分)(ミニトマト)

○化学的防除の効率化

- ・灰色かび病の耐性菌出現防止対策として、系統の異なる薬剤のローテーション散布
- ・オンシツコナジラミ対策としてピリプロキシフェン剤(テープ)の使用(殺虫剤散布回数を減少)

○物理的防除

- ・糖蜜を用いた土壌還元消毒法の利用（萎凋病，青枯病）と太陽熱消毒法の利用（半身萎凋病）
- ・サツマイモネコブセンチュウ対策として、高温処理（太陽熱（45℃・3時間以上）、温水の灌水処理（3～5日間））
- ・かいよう病対策として、土壌消毒（太陽熱、簡易太陽熱、熱水）、温湯種籾消毒機による種子消毒の利用

○生物的防除

- ・灰色かび病、葉かび病対策として、バチルスズブチリス剤の利用
- ・オンシツコナジラミ対策として、オンシツツヤコバチやポーベリア・バシアーナ剤、バーティシリウム・レカニ剤の利用
- ・アブラムシ類対策として、コレマンアブラバチの利用
- ・アザミウマ類対策として、ククメリスカブリダニの利用

○耕種的防除

- ・萎凋病，半身萎凋病，根腐萎凋病，葉かび病，青枯病及びタバコモザイクウイルスなどに対応した抵抗性品種・台木の導入
- ・灰色かび病対策として、換気によるハウス内湿度の低下，ほ場衛生管理（被害葉，被害果の除去），防霧性フィルム資材の利用
- ・オンシツコナジラミ対策として、作物残さ処理の徹底（抜き取り後ハウス内を45℃以上で7-10日間保つ）、ハウス内除草の徹底、未寄生苗の使用
- ・ミカンキイロアザミウマ対策として、寄生した苗・植物を持ち込まない、冬期間の被覆ビニール除去による越冬阻止
- ・サツマイモネコブセンチュウ対策として、耐虫性品種、対抗植物の利用

※栽培に当たっての留意事項

- 半身萎凋病ではレース2が発生しており、これは半身萎凋病抵抗性品種及び台木を侵すので注意すること。
- 疫病が発生したばれいしょほ場に隣接したハウスでは疫病の発生に注意すること。
- 「千果」は斑点病抵抗性を持たないので注意すること。

※注釈

●ミカンキイロアザミウマ対策

寄生苗等の持ち込みに注意し、早期発見と化学的防除により密度抑制し、冬期間のビニール除去による越冬阻止により総合的に防除を行う。冬期間の被覆ビニール除去が越冬を阻止する確実な方法であるが、側窓を開放し-10℃以下で168時間以上を確保できれば越冬を阻止できる。